

エンブレル皮下注用 10mg エンブレル皮下注用 25mg

【この薬は？】

販売名	エンブレル皮下注用 10mg ENBREL 10mg for S.C. Injection	エンブレル皮下注用 25mg ENBREL 25mg for S.C. Injection
一般名	エタネルセプト（遺伝子組換え） Etanercept (genetical recombination)	
含有量 (1 バイアル 中)	10mg	25mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗リウマチ薬と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、異常に増えている腫瘍（しゅよう）壊死因子（TNF）という炎症や痛みの発現にかかわっている物質に作用し、関節リウマチの症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

既存治療で効果不十分な下記疾患

○関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまた

は家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 患者さんや家族の方は以下の点について十分理解できるまで説明を受けてください。理解したことが確認されてから使用が開始されます。
 - ・この薬を使用することにより、結核、敗血症を含む重篤な感染症および脱髄疾患（だつずいしっかん）（多発性硬化症など）が発生したり悪くなったりすることがあります。
 - ・この薬との関連性は明らかではありませんが、悪性腫瘍があらわれたとの報告があります。
 - ・この薬は病気を完治させるものではありません。また、重篤な副作用により、致命的な経過をたどることがありますので、副作用があらわれた場合にはただちに主治医に連絡してください。
- この薬の使用により致死的な感染症（敗血症、真菌感染症を含む日和見感染症など）、結核〔播種性結核（はしゅせいけっかく）および肺外結核を含む〕による死亡例が報告されています。すでに結核に感染している人では結核の症状があらわれたり悪くなったりすることがあるので、使用する前に問診および胸部レントゲン検査に加え、インターフェロン-γ遊離試験またはツベルクリン反応検査、場合によっては胸部CT検査などが行われます。過去に結核にかかったことのある人、または感染が疑われる人は、原則として抗結核薬を使用した上でこの薬を使用します。
- 脱髄疾患の人や過去に脱髄疾患であった人には使用できません。また、脱髄疾患が疑われる人や血縁に脱髄疾患になった人がいる人は画像診断などの検査が行われます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・敗血症の人またはその可能性がある人
 - ・重篤な感染症の人
 - ・活動性結核の人
 - ・過去にエンブレルに含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・脱髄疾患（多発性硬化症など）の人および過去に脱髄疾患であった人
 - ・うっ血性心不全の人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・感染症にかかっている人または感染症が疑われる人
 - ・過去に結核にかかったことのある人または結核にかかったことが疑われる人
 - ・感染症にかかりやすい状態にある人
 - ・B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがある人（HBs抗原が陰性で、かつHBc抗体またはHBs抗体が陽性の人）
 - ・脱髄疾患が疑われるような徴候がある人および血縁に脱髄疾患になった人がいる人
 - ・重篤な血液疾患（汎血球減少、再生不良性貧血など）の人または過去に重篤な血液疾患になったことがある人

- ・間質性肺炎になったことがある人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- B 型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去に B 型肝炎ウイルスに感染したことがある人（HBs 抗原が陰性で、かつ HBc 抗体または HBs 抗体が陽性の人）がこの薬を使用すると、B 型肝炎ウイルスの再活性化があらわれる可能性があります。このため、この薬を使用する前に血液検査で、B 型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを確認されます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

● 使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔関節リウマチの場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	10～25mg	25～50mg
注射回数	1 日 1 回を 3～4 日に 1 回	1 日 1 回を 1 週間に 1 回

〔多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合〕

通常、小児の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	体重1kgあたり0.2～0.4mg*
注射回数	1 日 1 回を 3～4 日に 1 回

*ただし、1回量は25mgまでです。

●どのように使用するか？

- ・皮下注射してください。巻末の「自己注射の方法」、自己注射のためのガイドブック「自己注射ガイドブック エンブレルを正しく注射するために」もあわせて参照してください。
- ・注射部位反応（紅斑、発赤、疼痛、腫脹、そう痒感）が報告されていますので、注射するたびに注射部位を大腿（だいたい）部、腹部、上腕部などというように順序良く移動して、短期間に同一部位へ繰り返して注射しないようにしてください。新しく注射する部位は、前回の注射部位から少なくとも 3cm 離してください。
- ・皮膚が敏感なところ、傷があるところ、発赤または硬結（周りより硬くなっている部分）への注射は避けてください。
- ・使用済みの注射針、注射器などは医療廃棄物となりますので、その取り扱いに

は十分注意し、医療機関から指示された方法にしたがって子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

- ・決して2回分を一度に使用しないでください。
- ・気がついた時に、1回分を注射してください。
- ・その後は1週間に1回または3～4日に1回となるよう次の注射を行ってください。（ただし、次に使用する時間が近い場合はその回は使用せず、次の指示された時間に1回分を使用してください。）

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において皮下に注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、免疫反応を調整する物質の作用を抑えるので、感染症にかかりやすくなる場合があります。発熱、発熱の持続、体がだるい、喉の痛み、挫傷、蒼白など血液障害や感染症を疑う症状があらわれた場合には、ただちに主治医に相談してください。
- ・過去に結核にかかったことのある人で、結核が疑われるような症状（持続するような咳、発熱など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがある人は、肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーの定期的な検査が行われます。B型肝炎ウイルスの再活性化が起こっていると思える症状（発熱、体がだるい、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・この薬を使用している間は生ワクチン〔麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、BCG など〕の接種はできません。接種の必要がある場合には主治医に相談してください。
- ・注射部位に紅斑、発赤、疼痛、腫脹、そう痒感などの注射部位反応あるいは注射部位出血などがあらわれることがありますので注意してください。
- ・この薬を使用するにあたって、患者さんや家族の方は危険性や対処法について十分理解できるまで説明を受けてください。また、患者さん自身で注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合や注射を続けられないと感じた場合は使用を中止し医師または薬剤師に相談してください。
- ・一度使用した注射針や注射器は再度使用してはいけません。使用済みの注射器と注射針の廃棄方法などについて十分理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬で乾癬があらわれたりまたは悪くなったりすることが報告されています。このような場合には医師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。

- ・妊娠中にこの薬を使用したお母さんから生まれた赤ちゃんが生ワクチン接種を受ける時には、接種の前に医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な感染症(敗血症、肺炎(ニューモシスチス肺炎を含む)、真菌感染症等の日和見感染症) じゅうとくなかんせんしょう(はいけつしょう、はいえん(ニューモシスチスはいえんをふくむ)、しんきんかんせんしょうとうのひよりみかんせんしょう)	発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい、咳、痰、息切れ、息苦しい
結核 けっかく	寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く
重篤なアレルギー反応 じゅうとくなアレルギーはんのう	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸(どうき)、息苦しい
重篤な血液障害 じゅうとくなけつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ
脱髄疾患 だつずいしっかん	まひ、顔の異常な感覚、手足の異常な感覚、見えにくい、意識の低下
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
抗 dsDNA 抗体の陽性化を伴うループス様症候群 こうディーエスディーエヌエーこうたいのようせいかをとものうループスようしょうこうぐん	発熱、関節の痛み、むくみ
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう(デン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん(スティーブンス-ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

重大な副作用	主な自覚症状
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 陽性血管炎 こうこうちゅうきゅうさいぼうしつこう たい(エイエヌシーエイ)ようせいけっか んえん	血尿、鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、発熱、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態）
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重が増える
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、寒気、体がだるい、寝汗をかく、体重が減る、微熱、ふらつき、出血が止まりにくい、まひ、むくみ、疲れやすい、力が入らない、食欲不振、体重が増える
頭部	頭が重い、意識の低下
顔面	鼻血、顔の異常な感覚、鼻水、鼻づまり
眼	見えにくい、目の充血やただれ
口や喉	咳、痰、咳が続く、喉のかゆみ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、吐き気、唇や口内のただれ
胸部	息切れ、息苦しい、動悸
手・足	脈が速くなる、手足の異常な感覚、関節の痛み
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態）
尿	血尿、尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる

【この薬の形は？】

販売名	エンブレル皮下注用 10mg	エンブレル皮下注用 25mg
性状	白色の塊（凍結乾燥製剤）	
形状		

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	エタネルセプト（遺伝子組換え）
添加剤	D-マンニトール、精製白糖、トロメタモール、 トロメタモール塩酸塩

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（2～8℃）で保管してください。
- ・溶解後は、速やかに使用してください。
- ・溶解後やむを得ず保存する場合は、2～8℃で保存し、6時間以内に使用してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●この薬の廃棄方法は？

- ・使用済みの針および注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

メディカル・インフォメーション（患者さん・一般の方）

電 話：0120-965-485

受付時間：月～金 9時～17時30分

（土日祝日および弊社休業日を除く）

自己注射の方法

【関節リウマチの場合】

〔用意〕

◆注射に必要な器具

薬のバイアル(びん)



*実際の薬のバイアルにはラベルがついています。

注射用水のアンプル



アルコール綿



注射器



溶解用 注射針



注射用 注射針



医療機関で用意されるものが、写真と異なる場合があります。医療機関で用意されるものをお使いください。

【注意】

- ◆注射に必要なものは、お子様の手の届かない場所に、清潔な状態で保管してください。
- ◆バイアルは冷蔵庫で保管してください。(冷凍庫には入れないでください)

◆薬のバイアルと注射に必要な器具の用意

1 テーブルの準備をします。



明るく、平らな場所を選びます。
十分な広さを確保して、
あらかじめ清潔にしておきます。

2 手を石鹸で十分に洗います。



手洗い後は、水気をふき取って
ください。

3 自己注射マット※を置き、バイアル、注射に必要な器具を並べます。



次のものがすべてそろっていることを確認します。

- 薬のバイアル
- 注射器
- アルコール綿
- 注射用水のアンプル
- 溶解用注射針
- 注射用注射針

※自己注射マットの製造は現在中止しております。

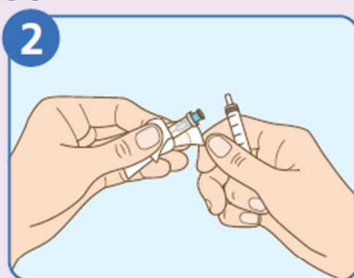
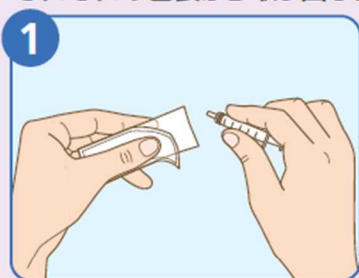
【注意】 以下の点にお気付きの場合、使用前に必ず主治医にご連絡ください。

- ◆薬のバイアル、注射用水の使用期限が過ぎている場合
- ◆薬のバイアル、注射用水のアンプル、注射に必要な器具が破損している場合
- ◆注射用水の中に、粒や固まりがあったり、無色透明でない場合

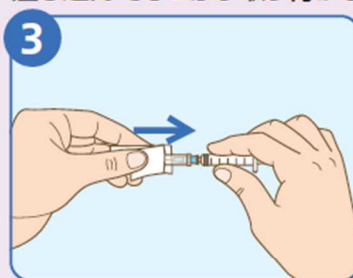
〔注射の準備〕

◆注射用水の注射器への吸引

1 注射器と溶解用注射針を、
それぞれの包装から取り出します。



2 注射器に溶解用注射針を
差し込んでしっかり取り付けます。



❗ 包装から取り出したあとは、注射器の先端、注射針
の接続部分に触れないように気をつけてください。



❗ 注射針が注射器にしっかり
接続したことを、左右の手で
おさえて
確認して
ください。





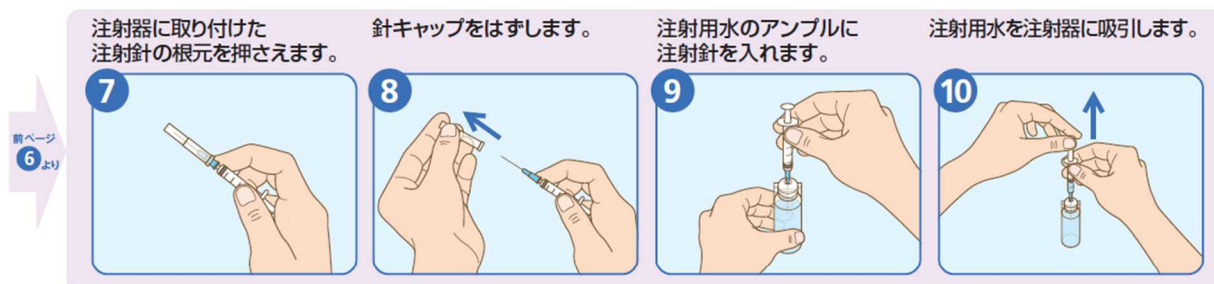
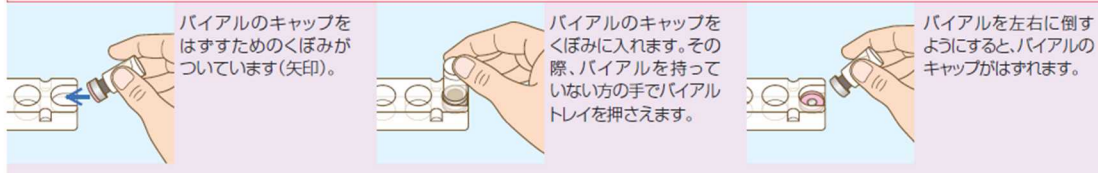
キャップはバイアルトレイを使うと、簡単にはずすことができます。

❗ 消毒したゴム栓には手触れないように気をつけてください。

❗ 注射用水のアンプルの切り口には手触れないように気をつけてください。



バイアルトレイを使ってバイアルのキャップをはずす方法



針キャップといっしょに注射針がはずれないように、注射針の根元を押さえます。

❗ 針キャップをはずす際には、以下の点に気をつけてください。

- ◆ 注射針を曲げない
- ◆ 注射針を指に刺さない
- ◆ 針キャップといっしょに注射針をはずさない

❗ 注射用水のアンプルの切り口には、手や針先が触れないように気をつけてください。



注射器の内筒(内筒頭側)をゆっくり引いて、注射用水を1mLより少し多めに入れます。

❗ 注射器から内筒が抜けないように、気をつけてください。

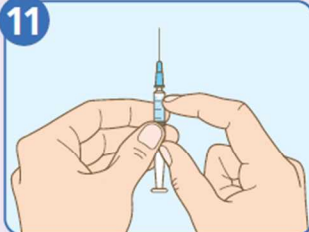


❗ 注射器の内筒部分に触れないように、気をつけてください。



注射器の上部に気泡を集めます。

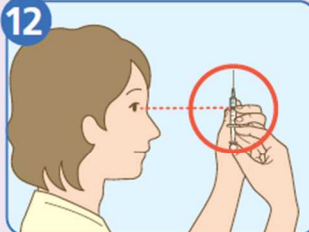
11



注射針をまっすぐ上に向け
注射器を持ち、指で注射器を
2～3回かるくたいて、
上部に気泡を集めます。

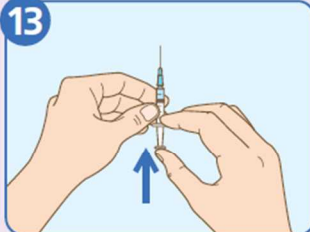
注射器の目盛りを
目の高さに合わせます。

12



内筒を押して、注射用水を
1mLに合わせます。

13



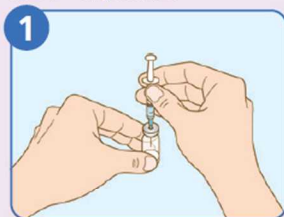
内筒をゆっくり押して空気を
抜きながら、1mLの目盛りまで
合わせます。
多少の気泡が残っていても
さしつかえありません。

注射器を目の高さに
合わせ、内筒の先端
(黒いゴム栓部分の
上部)を1mLの目盛り
に合わせます。

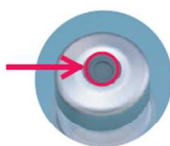


◆薬の溶解

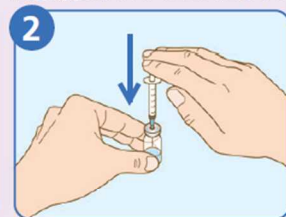
バイアルに注射針をまっすぐ刺します。



バイアルのゴム栓の中央に注射針をまっすぐ刺します。



注射器の内筒をゆっくり押し下げ、注射用水をバイアルに入れます。



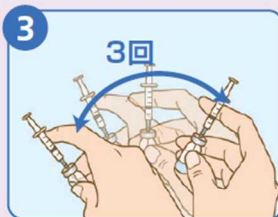
注射器の内筒をゆっくり押し下げ、注射用水を全量(1mL)バイアルに入れます。

内筒を押した後、手を離すと圧力で内筒は押し戻されますが、そのままにしておいてかまいません。



❗ 気泡が立ちやすいので、注射用水はゆっくりとバイアルに入れてください。

ゆっくり薬を溶かします。



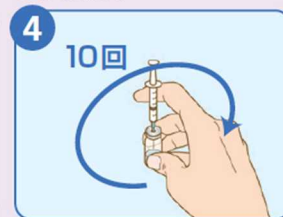
まず、左右に3回、ゆっくりバイアルを傾けます。

❗ このとき、激しく振らないでください。

❗ 注射器の内筒部分に触れないように気をつけてください。

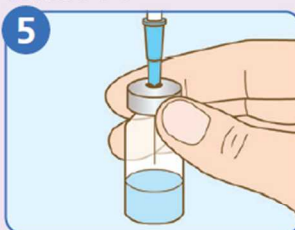


ゆっくり円を描くようにまわします。



次に、テーブルの上でゆっくり大きく円を描くように10回ほどまわし、薬が完全に溶けるまで待ちます。

薬が完全に溶けたことを確認します。



完全に溶けると、粒や固まりがなくなります。

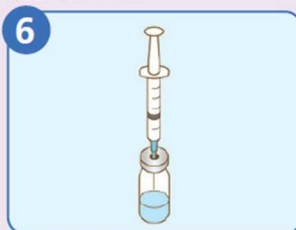
❗ 薬液の中に異物がないことを確認してください。

バイアルの液面に写真のような気泡ができることがありますが、多少の気泡が残っていても問題ありません。



【溶解10分後】

これで薬の溶解が完了しました。



バイアルが倒れて、注射器がはずれないように注意して置きます。バイアルトレイを使うと、安定した状態で置くことができます。

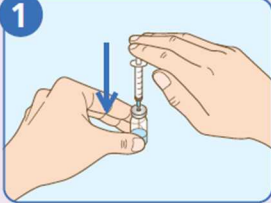


【注意】

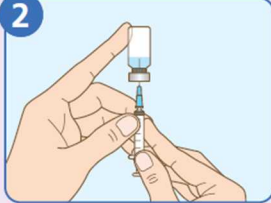
- ◆ 5分たっても溶けない場合は、③と④の操作を繰り返し、さらに5分ほど待ってください。
- ◆ 薬を溶かした後はすみやかに使用してください。

◆薬液の注射器への吸引

1 注射器の内筒をゆっくり押し下げます。



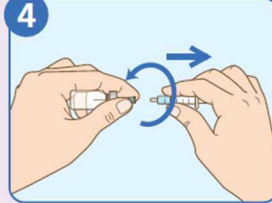
2 注射器の内筒を押したまま、バイアルを上にして持ちます。



3 バイアル内の薬液を注射器へ吸引します。

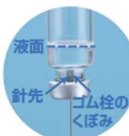


4 注射器だけをバイアルからはずします。



❗ 気泡が立つ場合があるので、注射器の内筒はゆっくりと押し下げてください。

バイアル内で針先は液面より下の方にあるようにしてください。このとき、針先がバイアルから抜けないようにします。



注射器を垂直にして、内筒をゆっくり引き下げます。バイアル内の薬液が注射器の中に移ったことを確認したら、そこで吸引を止めます。

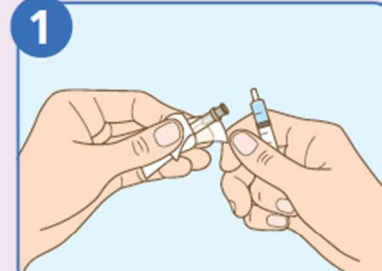
バイアルに刺してある注射針の根元をしっかりと押さえて、注射器だけをひねるようにしてはずします。



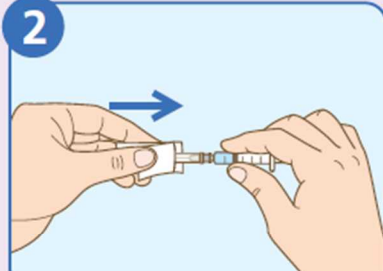
注射針はバイアルに刺したままにしておきます。

◆注射用注射針の取り付け

1 注射用注射針を包装から取り出します。



2 注射器に注射用注射針を挿し込んでしっかり取り付けます。



❗ 注射器の先端、包装から取り出した注射針の接続部分に触れないように気をつけてください。




❗ 取り付ける際、注射器の内筒を押さないように気をつけてください。

❗ 注射針が注射器にしっかり接続したことを、左右の手でおさえて確認してください。



〔注射のしかた〕

◆注射する部位

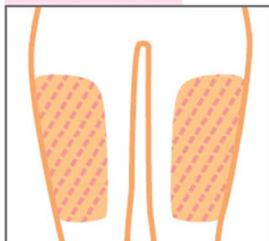
- ・注射する部位は、主治医の指示に従ってください。

皮下注射に適した部位

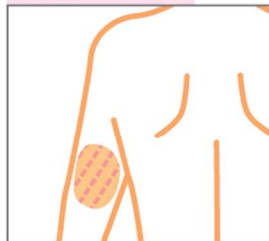
腹部(おなか)



大腿部(太もも)



上腕部



上腕の場合は後ろ側のたるみがある部位に注射します。

〔注意〕

- ◆特に皮膚が薄いと思われる患者さん(高齢者など)では、腹部もしくは十分に厚みのある大腿部(特に関節や骨から離れている部位)に注射してください。

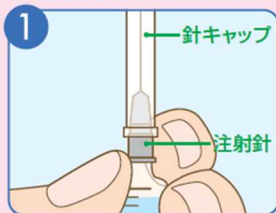
〔注意〕

- ◆前回注射した部位とは違う部位に注射してください。もし同じ部位に注射する場合には、前回の部位より少なくとも3cmは離してください。
- ◆皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている部位へ注射しないでください。
- ◆注射した部位を覚えておくために、患者手帳などに注射日と注射した部位を必ず記録してください。

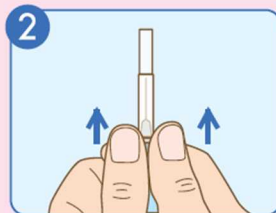
◆注射器内の気泡(空気)ぬき

- ・注射の方法は、主治医の指示に従ってください。

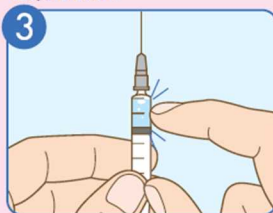
注射針の根元をおさえます。



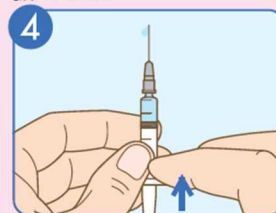
針キャップをはずします。



注射器の上部に気泡(空気)を集めます。



注射器内の気泡(空気)を抜きます。



針キャップと一緒に注射針がはずれないよう注射針の根元をおさえます。

❗ 針キャップをはずす際には、以下の点に気をつけてください。

- ◆ 注射針を曲げない
- ◆ 注射針を指に刺さない
- ◆ 針キャップといっしょに注射針をはずさない

注射針をまっすぐ上に向け、注射器を持ち、指で注射器を2～3回かるくたたいて上部に気泡(空気)を集めます。



注射器をまっすぐ上に向けた状態で、ゆっくりと内筒を上を押し、針先から薬液が1、2滴出始めたらそこで止めます。多少の気泡(空気)が残っていてもさしつかえありません。

❗ 多少の空気は皮下脂肪層で吸収されるため問題ありません。

◆注射

- ・注射の方法は、主治医の指示に従ってください。

注射する部位をアルコール綿で消毒します。



❗ 注射をするまで、消毒した部位に手を触れないように気をつけてください。

注射針を斜めに刺します。



消毒した部位の皮膚を軽くつまみ、注射針を45～90°の角度で刺します。

❗ 手指の状態により、シリンジの持ち方を工夫してください。



注射します。



注射器をしっかり持ち、内筒をゆっくり最後まで押しきって注射します。

注射針を抜いて、アルコール綿でおさえます。



注射器内の薬液が空になったらゆっくり注射針を皮膚から抜きます。注射針を抜いたあと、アルコール綿で5秒間ほどおさえます。

❗ 注射後、もむと腫れることがあるので、もまないでください。

【多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合】

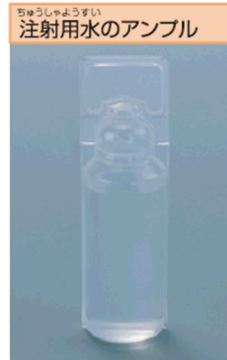
〔用意〕

◆注射に必要な器具



*実際の薬のバイアルにはラベルがついています。

医療機関で用意されるものが、写真と異なる場合があります。
医療機関で用意されるものをお使いください。



◆薬のバイアル、注射用水、注射に必要な器具の用意

1 テーブルの準備をします。



明るく、平らな場所を選びます。
十分な広さを確保して、あらかじめ清潔にしておきます。

2 手を石けんで十分に洗います。



手洗い後は、水気をふき取って
ください。

3 薬のバイアル、注射用水、
注射に必要な物品を並べます。



次のものがすべてそろっていることを確認します。

- ・薬のバイアル
- ・注射用水のアンブル
- ・注射器
- ・溶解用注射針
- ・注射用注射針
- ・アルコール綿

【注意】以下の点にお気付きの場合、使用前に必ず主治医にご連絡ください。

- ◆薬のバイアル、注射用水がすでに使用期限を過ぎている場合
- ◆薬のバイアル、注射用水のアンブル、注射に必要な物品が破損している場合
- ◆注射用水の中に、粒や固まりがあったり、無色透明でない場合

〔注射の準備〕

◆注射用水の注射器への吸引

注射器と溶解用注射針を、それぞれの包装から取り出します。

1



注射器に溶解用注射針を差し込んでしっかり取り付けます。

2



3



! 包装から取り出したあとは、注射器の先端、注射針の接続部位に触れないように気をつけてください。

✗



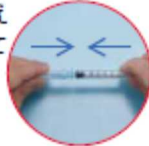
触れない

✗



触れない

! 注射針が注射器にしっかり接続したことを、左右の手でおさえて確認してください。



バイアルのキャップをはずします。

4



ゴム栓をアルコール綿で消毒します。

5



注射用水のアンプルのキャップを開けます。

6



キャップはバイアルトレイを使うと簡単にはずすことができます。

! 消毒したゴム栓には手は触れないように気をつけてください。

! 注射用水のアンプルの切り口には手は触れないように気をつけてください。

✗



触れない

バイアルトレイを使ってバイアルのキャップをはずす方法



バイアルのキャップをはずすためのくぼみがついています(矢印)。



バイアルのキャップをくぼみに入れます。その際、バイアルを持っていない方の手でバイアルトレイを押さええます。



バイアルを左右に倒すと、バイアルのキャップがはずれます。

注射器に取り付けた注射針の根元をおさえます。



針キャップと併しよに注射針がはずれないように、注射針の根元をおさえます。

針キャップをはずします。



針キャップをはずす際には、以下の点に気をつけてください。

- 注射針を曲げない
- 注射針を指に刺さない
- 針キャップと併しよに注射針をはずさない

注射用水のアンプルに注射針を入れます。



注射用水のアンプルの切り口には、手や針先が触れないように気をつけてください。



注射用水を注射器に吸引します。



注射器の内筒（内筒端側）をゆっくり引いて、注射用水を1mLより少し多めに入れます。

注射器から内筒が抜けないように気をつけてください。



注射器の内筒部分に触れないように気をつけてください。



注射器の上部に気泡を集めます。



注射針をまっすぐ上に向け注射器を持ち、指で注射器を2～3回かるくたたいて、上部に気泡を集めます。

注射器の目盛りを目の高さに合わせます。

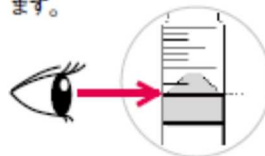


内筒を押して、注射用水を1mLに合わせます。



内筒をゆっくり押して空気を抜きながら、1mLの目盛りまで合わせます。多少の気泡が残っていてもさしつかえありません。

注射器を目の高さに合わせ、内筒の先端（黒いゴム栓部分の上部）を1mLの目盛りに合わせます。

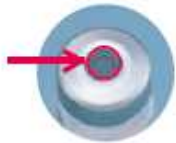


◆薬の溶解

1 バイアルに注射針をまっすぐ刺します。



バイアルのゴム栓の中央に注射針をまっすぐ刺します。



2 注射器の内筒をゆっくり押し下げ、注射用水をバイアルに入れます。



注射器の内筒をゆっくり押し下げ、注射用水を全量(1mL)バイアルに入れます。

内筒を押した後、手を離すと圧力で内筒は押し戻されますが、そのまましておいてかまいません。



! 気泡が立ちやすいので、注射用水はゆっくりとバイアルに入れてください。

3 ゆっくり薬を溶かします。



まず、左右に3回、ゆっくりバイアルを傾けます。

! この時、激しく振らないでください。

! 注射器の内筒部分に触れないように気をつけてください。

× 触れない



4 ゆっくり円を描くようにまわします。



次に、テーブルの上でゆっくり大きく円を描くように10回ほどまわし、薬が完全に溶けるまで待ちます。

5 薬が完全に溶けたことを確認します。



完全に溶けると、粒や固まりがなくなります。

! 薬液の中に異物がないことを確認してください。

バイアルの液面に写真のような気泡ができることがあります。が、多少の気泡が残っていても問題ありません。



【溶解10分後】

6 これで薬の溶解が完了しました。



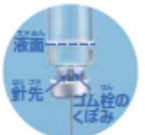
バイアルが倒れて、注射器がはずれないように注意して置きます。バイアルトレイを使うと、安定した状態で置くことができます。



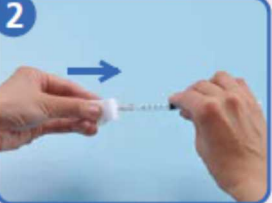
【注意】

- ◆5分たっても溶けない場合は、③と④の操作を繰り返し、さらに5分ほど待ってください。
- ◆薬を溶かした後はすみやかに使用してください。

◆薬液の注射器への吸引

注射器の内筒をゆっくり押し下げます。 1 	注射器の内筒を押したまま、バイアルを上にして持ちます。 2 	バイアル内の薬液を注射器へ吸引します。 3 	注射器だけをバイアルからはずします。 4 
! 気泡が立つ場合があるので、注射器の内筒はゆっくりと押し下げてください。	バイアル内で針先は液面より下の方にあるようにしてください。このとき、針先がバイアルから抜けないようにします。 	注射器の内筒をゆっくり引いて、指示された量より少し多めに薬液を吸引します。	バイアルに刺してある注射針の根元をしっかりと押さえて、注射器だけをひねるようにはずします。 注射針はバイアルに刺したままにしておきます。 

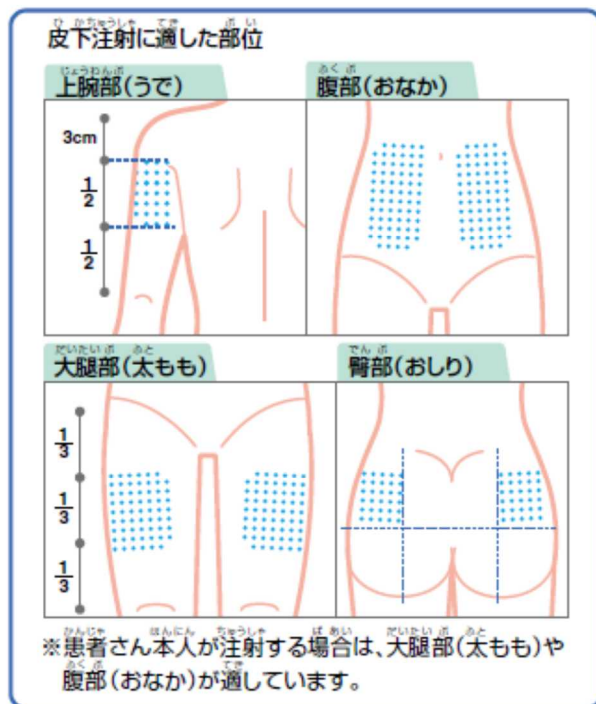
◆注射用注射針の取り付け

注射用注射針を包装から取り出します。 1 	注射器に注射用注射針を差し込んでしっかり取り付けます。 2 
! 注射器の先端、包装から取り出した注射針の接続部に触れないように気をつけてください。 ✗ 触れない  ✗ 触れない 	! 取り付ける際、注射器の内筒を押さないように気をつけてください。 ! 注射針が注射器にしっかり接続したことを、左右の手でおさえて確認してください。 

〔注射のしかた〕

◆注射する部位

- ・注射する部位は、主治医の指示に従ってください。



【注意】

- ◆前回注射した部位とは違う部位に注射してください。もし同じ部位に注射する場合には、前回の部位より少なくとも3cmは離してください。
- ◆皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている部位へ注射しないでください。
- ◆病医院でステロイドの局所投与(関節内投与)を受けた後に自己注射する場合は、その関節から十分に離れた部位に注射してください。
- ◆注射した部位を覚えておくために、患者手帳などに注射日と注射した部位を必ず記録してください。

◆注射

- ・注射の方法は、主治医の指示に従ってください。



❗ 注射するまで、消毒した部位に手を触れないように気をつけてください。

❗ 針キャップをはずす際には、以下の点に気をつけてください。

- 注射針を曲げない
- 注射針を指に刺さない
- 針キャップといっしょに注射針をはずさない

注射針をまっすぐ上に向け、注射器を持ち、指で注射器を2～3回かるくたたいて上部に気泡を集めます。

【注意】

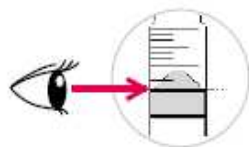
- ◆指示された薬液量を必ず守ってください。ご自分の判断で、薬液量を調節しないでください。

内筒を押して、指示された薬液量に合わせます。



内筒をゆっくり押して空気を抜きながら、指示された薬液量の目盛りまで合わせます。多少の気泡が残っていてもさしつかえありません。

注射器を目の高さに合わせ、内筒の先端（黒いゴム栓部分の上部）を指示された薬液量の目盛りに合わせます。



注射針を斜めに刺します。



消毒した部位の皮膚を軽くつまみ、注射針のカット面を上にして斜め（10～30°）に刺します。



注射します。



注射器をしっかり持ち、ゆっくり内筒を最後まで押しきって注射します。

注射針を抜いて、アルコール綿でおさえます。



注射器内の薬液が空になったら注射針を皮膚から抜きます。注射針を抜いたあと、アルコール綿で5秒間ほどおさえます。

❗ 注射後、もむと腫れることがあるので、もまないでください。



【注意】

◆ 使用済みの注射針は針キャップをはめずに指示された容器に廃棄してください。